

1

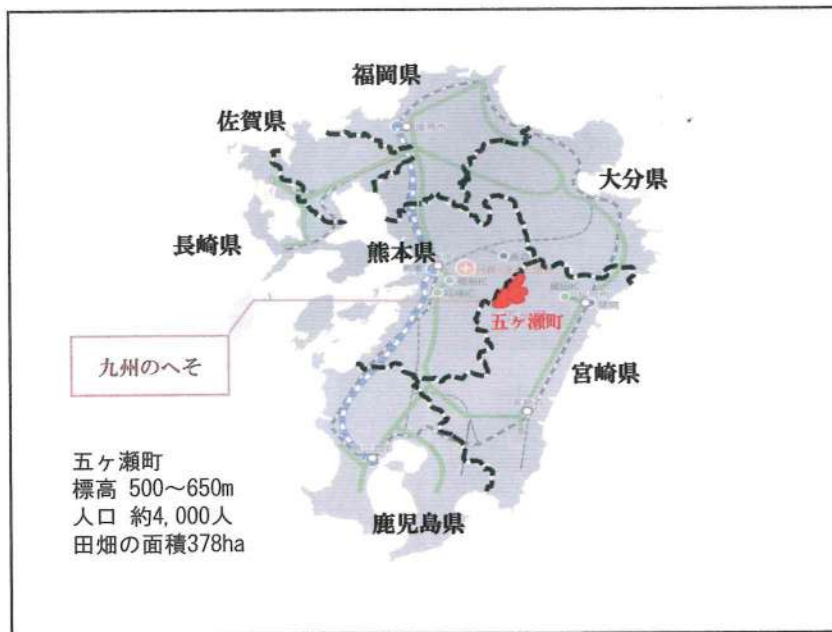


2

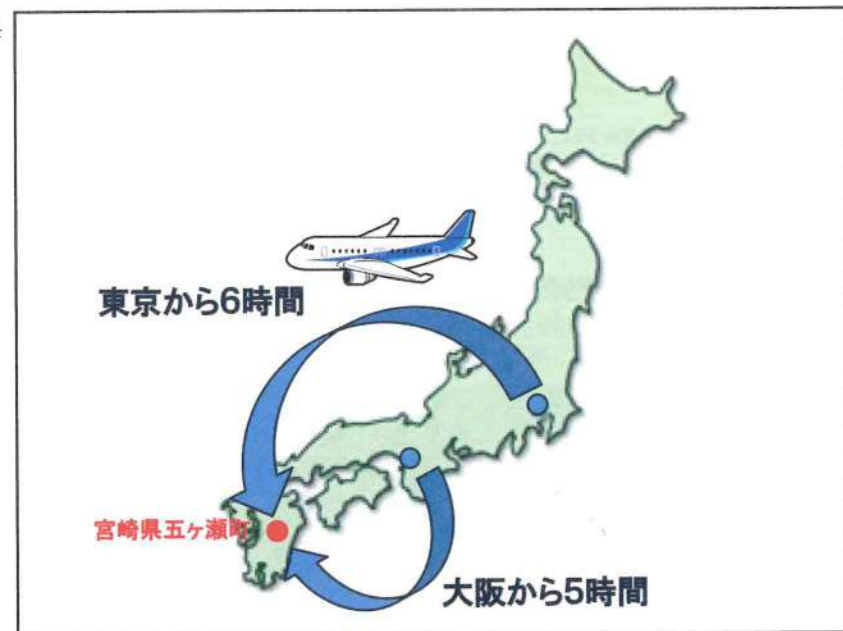
### 宮崎県五ヶ瀬町の生産者の皆様



3



4





5



6



平成30年2月 今年は雪が多く大幅に準備が遅れる

7



平成30年3月 ようやく雪が解け堆肥を施用する  
NRWF 鶏糞堆肥：350kg×40袋＝14 t  
(ミニトマト75 a ピーマン50 a)

8

## 腐植＝土壤有機物 について

※来期調査項目

- 土壤中の無機養分を保持 (CEC)
  - 土壤の団粒化 (土壤コロイド)
  - pHの変動を抑制
    - ・ アルミニウムの不活性化 (リン酸可溶性)
    - ・ 生理活性 (生育促進)
    - ・ 植物ホルモン (オーキシシン・サイトカイニン)
    - ・ 土壤微生物 (細菌・放線菌・糸状菌・珪藻)
- などに大きく関与する。

一般財団法人日本土壤協会「図解でわかる土・肥料のきほん」より



9



長谷野ツジ子 様

平成30年5月10日～15日 ピーマン定植  
※ゴールデンウィークを過ぎるまでは霜の心配がある

10



長谷野ツジ子 様

平成30年6月20日（定植から約1ヶ月）  
ピーマンの出荷開始

11



今年は、**宮崎青果株式会社**様（元請け）に出荷する。  
味・品質ともに好評でした⇒特に外食向けに人気あり!!

12



ネッカリッチのミニトマトを使った  
マルゲリータビアンカ



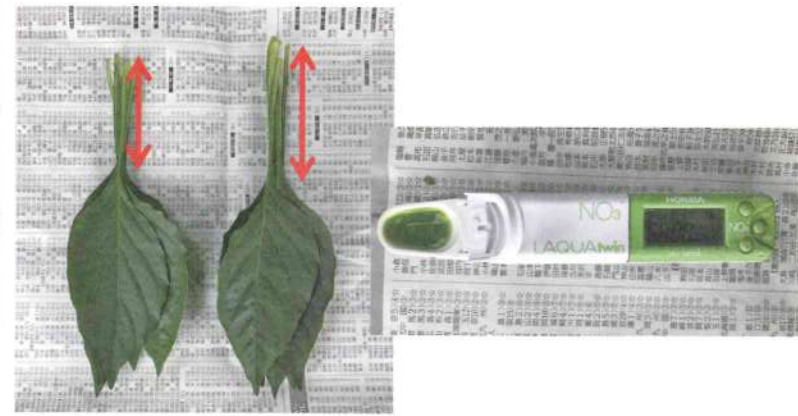
13



長谷野ツ子 様

定期的に勉強会を開催  
硝酸態窒素の計測 ⇒ 品質向上と病気予防に生かす

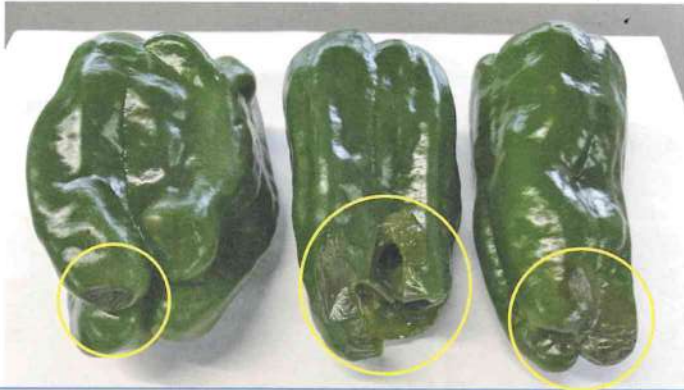
14



葉の大きさや色・軸の長さ病気の有無を観ることで、樹の状態を把握する。  
⇒ピーマンの樹の上から20cm下、葉っぱの軸の汁を計測する。

15

窒素過多による尻腐れ (NO<sub>3</sub>濃度8,000ppm以上)



収穫初期の窒素過多によりカルシウムの効きが悪くなり発生する。  
WBSを灌水することで余分な窒素分を代謝し軽減させ、カルシウムサイクラーの効果でカルシウムの効きを良くしてやると良い。

16

窒素不足による斑点細菌病 (NO<sub>3</sub>濃度6,000ppm以下)



石田様・吉村様 圃場

7月初旬から極端な高温と着果負担により肥料分が不足し発病する。  
定期的に追肥しWBSを併用することで、樹勢を維持すると良い。



17

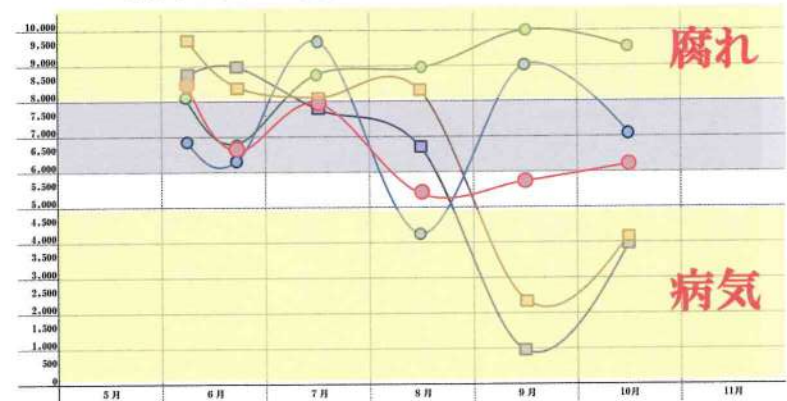
## 台風による被害



今年台風が多く、その都度、準備や後片付けに奔走した。  
露地ピーマンは風に弱く、ネットをしても強風には耐えられない。

18

## 硝酸態窒素を意識した栽培



計測日	6/12	6/25	7/16	8/13	9/15	10/10	
佐藤太1	8,100	6,700	8,800	8,900	10,000	9,500	
橋本太2	6,900	6,400	9,700	4,200	9,000	7,100	
長谷野太3	8,600	6,700	8,100	3,500	5,800	6,200	
石田太4	8,800	9,000	7,900	6,800	1,000	4,000	
吉村太5	9,700	8,400	8,100	8,500	2,000	4,100	

19

## 生産者収入 ※75歳女性の場合

栽培形態 露地ピーマン 栽培面積 10 a  
定植本数 800本 総出荷量 4,740kg  
収穫期間 6/25~10/15 (約4ヶ月)  
栽培期間 4/上~10/末 (約7ヶ月) ※準備片付け含む

売上げ	...	2,074,731円	
手数料等	...	250,537円	
集荷賃	...	142,200円	
箱代	...	57,354円	
苗・肥料など	...	150,000円	
ネッカリツチ資材	...	68,000円	
手取り	...	1,406,640円	(消費税別)

20



平成30年4月10~15日 ミニトマト定植

25



21



平成30年5月 気温も上がり順調に成長していく

22



平成30年7月初旬（定植から約3ヶ月）  
収穫開始

23

ヘタ取れ (NO<sub>3</sub>濃度4,000ppm以下)



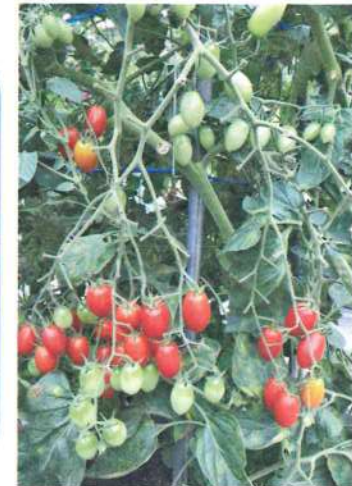
ヘタ取れは、窒素不足とカルシウム不足。着果後は、通常の液肥に加え硝酸カルシウムを足してやり、WBSを定期的に灌水することでヘタに厚みができ取れにくくなる。

24

高温障害によるホウキ花  
(NO<sub>3</sub>濃度4,000ppm以下)

ハウス内が40℃近い高温時に花芽が異常分化する。ひと房に50~80個の花が咲くが、実が小さく収穫の手間がかかる。樹が極度に弱り、葉カビなどの病が入る。後半の収穫量が激減する。

水と肥料をしっかりとやり硝酸濃度を4,500~6,000ppm程度の高めに保つ。ただし、窒素分を効かせ過ぎると色づきが遅くなるので、WBSを併用し代謝を促すと良い。





25

高温障害による花落ち  
(NO<sub>3</sub>濃度4,000ppm以下)



水不足・肥料不足・着果負担（実の着け過ぎ）に高温が加わると、  
受粉がうまくいかず花が落ちる。同じく硝酸濃度を高めに保つと良い。

26

シオルダーグリーン・グリーンベース  
(NO<sub>3</sub>濃度5,500ppm以上)



ヘタ周りに緑色が残るときは、窒素分が効きすぎている状態。  
または、曇天や葉カビなどによる光合成不足。WBSで硝酸態  
窒素を代謝してやると色づきが良くなる。

27

今期 導き出した結論

『冬のやり方を  
そのままやっても  
ダメだった!!』

28

低温時低硝酸3,000~4,500ppm  
⇒寒さに強くなる

高温時高硝酸4,500~6,000ppm  
⇒暑さに強くなる

何よりも  
しっかり肥料を吸える根が大事!!  
【地力増進】

29

### 他産地への波及



熊本県南阿蘇郡白水村 後藤光浩様 (ミニトマト)  
 南阿蘇地域のリーダー的存在  
**例年の収穫量3.5 t /10aの2倍達成!!**

30

### 他産地への波及



熊本県南阿蘇郡白水村 福本博文様 (ミニトマト)  
 前期最下位からの脱却 ⇒ 今期収穫量地域No.1 /40件中  
**地域の平均反収3 tの2.5倍を収穫!!**

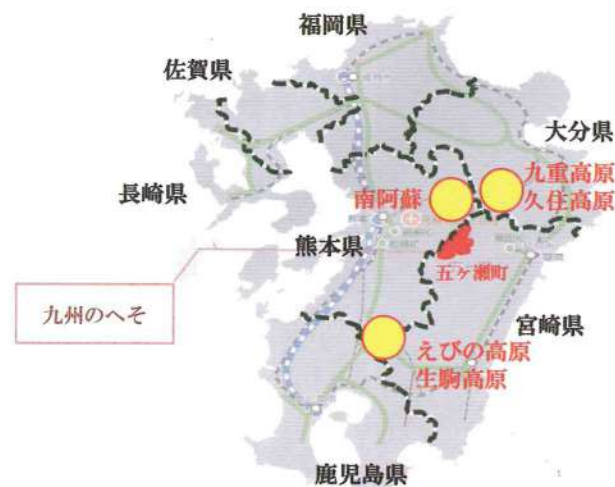
31

### 他産地への波及



H30年9月11日 福本博文様圃場にて講習会の様子  
 (地元生産者15名・種苗会社2名・農協1名)

32



**その他の高原・高冷地へ**